

放課後子ども教室の取組例（人権・地域教育課地域教育係HPより）



9月28日（水曜日）、生駒市立生駒小学校放課後子ども教室「こだま」において、奈良ヤクルト販売株式会社による出前授業「おなかの健康」を実施し、1年生～5年生47名が参加しました。

放課後子ども教室「こだま」は、子どもたちの居場所づくりと地域の方とのつながりづくりを目指すとともに、「子どもたちに多様な体験をさせたい。」という思いを大切に開催しています。これまでも月2～3回の開催のうち1回は、「パッチングエルづくり」や「なぞなぞクイズ大会」などのイベントを実施してきました。今後は「図書ボランティアによる英語での読み聞かせ」、「郵便局局長による年賀状作成」、「凧揚げ」などのイベントを予定しています。今回は、「ならの教育応援隊」を活用してみることにになり、様々なプログラムの中から奈良ヤクルト販売株式会社による出前授業を選択しました。

当日は、食事の大切さや身体のおくみなどについて、エプロンを着けた担当の方から子どもたちの興味を引きつけるような話をしていただき、「小腸の長さってどのくらい」、「腸内細菌ってどのくらいの数」など、クイズやビデオなども含め楽しく学ぶことができました。また、最後にみんなでヤクルトをいただきました。子どもたちからは、「好き嫌いをしないで何でも食べないといけないと思った。」などの感想を聞くことができました。

（※）「ならの教育応援隊」とは、学校・園の教育活動の一層の充実のために、子どもたちに出前授業や見学等を提供する団体や企業のことです。



8月20日（金曜日）、下北山村教育委員会主催、「地域おこし協力隊」の企画・運営による「小学生夏休み企画『森のび教室』」が実施されました。子どもたちは、のこぎりや斧、鉋の使い方を「地域おこし協力隊」のお二人から教わりながら丸太を加工し、自分が昼食で使う皿やベンチを一生懸命に作っていました。また、生木と枯木の重さの違いや、機械を使わずに作業をすることの大変さを実感しながら最後まで元気にプログラムに取り組んでいました。

企画した「地域おこし協力隊」のお二人は、それぞれ兵庫県と神奈川県から下北山村に移住し、自伐型林業に取り組まれています。教育委員会から「コロナ禍において様々な催しが中止となるなか、夏休みの思い出をひとつでも増やしてあげたい。また日頃行うことのない、非日常的な体験をさせてあげたいので、子どもたちのために何かできないだろうか。」と相談を受けて今回の企画を考えたそうです。「下北山村では、子どもたちは中学校卒業と同時に村から離れてしまうが、子どもたちが大人になり村に帰ってきてくれるためにも、子どもたちには幼少期から山を知ってほしいです。子どもたちが山を知り、山から学び、地域に愛着をもってもらうことで、林業についての学習だけでなく、学校での様々な学習に繋げることができると思います。」と話してくださいました。



7月27日（月曜日）、生駒市立あすか野小学校ふれあいホールにおいて、放課後子ども教室「まなびいや」が行われました。

今年度から、生駒市立あすか野小学校では、学校運営協議会制度を導入しました。第1回学校運営協議会の中で「放課後子ども教室」が話題となり、地域ボランティアの方々に運営される放課後の子どもたちの居場所づくり、体験活動の場である放課後子ども教室「まなびいや」が運営されることになりました。

第1回は「絵はがきを書こう」でした。子どもたちのはがきを書く機会が減り、この機会に家族や親戚などにはがきを出そうと取組が行われました。地元の郵便局から、子どもたちが活動で使うはがきが提供されていました。3・4年生の児童18名が参加し、10名のまなびいや運営スタッフの方々にアドバイスしてもらいながら、一生懸命に絵はがき作りを楽しんでいました。活動が進むにつれて、少し緊張気味だった子どもたちの顔も次第にほぐれ、スタッフの方々との距離感も縮まっているようでした。活動の最後に書いたアンケートにも、ほとんどの子どもたちが「今日の活動は楽しかった。」「次回の活動にも参加したい。」と書いていました。